



EQ

だより

平成 18 年 06 月発行

第 3 号

彩の国バリアフリー協会
〒336-0031
さいたま市南区鹿手袋4-1-7
埼玉県産連会館
TEL 048-864-9313
FAX 048-864-9381

バリアフリー建築カレッジ

「彩の国 バリアフリー建築カレッジ」の開催も昨年平成17年で8回をかさねました。その間、様々な分野の多くの方々がこのカレッジを受講し、バリアフリーに関する知識を習得されました。

この講座の目的は、バリアフリーに関する包括的な知識を得ることだけではなく、より身近な技術や応用方法を習得することにあります。そして現実には、このカレッジを受講した多くの方々が日常生活や業務を通してカレッジで得た経験を生かし、よりよい住環境造りに貢献されています。

平成17年のカレッジにおいてもこの目的に沿ったカリキュラムのために、東洋大学の高橋教授をはじめ多くの講師の方々や、ボランティアの方々のご協力を得て充実した講座が開催されました。

11月8日の第一回から12月20日の第四回までに、

シニアシュミレーターを使用した体験学習

実際に障害をお持ちの方ご自身の経験談

最前線の医療現場で活躍されている医師の講義

自立支援のための生活環境整備の設計基本論

完成した施設でのバリアフリー実例紹介

住宅や大規模建築物におけるバリアフリー改修設計の実技

等々幅広い内容の講習が行われました。

しかしながら昨年は、日本建築士事務所協会連合会の全国大会が埼玉県で行われたため、建築カレッジはこの大イベント開催の影にやや隠れてしまった感があり、参加人数が例年に比べてやや少なかったものの、それでも30名強の方が受講され無事修了証を手に入れました。受講された方々の各分野での活躍が期待されます。

バリアフリー協会は発足

武田 敏彦

以来、埼玉県と建築士事務所協会が主催するこの建築カレッジ運営のために協力してきました。しかし、介護保険をはじめとする各種制度自体が年々改正され、また技術の進歩は更に早い速度で進んでいること等々を考えると、一年限りのカレッジ受講でこと足りりとするには充分ではないのかもしれないと、修了者の方々の継続的な知識や技術のブラッシュアップこそ、最も大切なことではないでしょうか。

今後、よりよい建築カレッジのあり方を目指して、当協会はカレッジ開催に関与し応援していこうと決意を新たにしています



より良いカレッジを目指して

福祉機器最前線 '06ビックサイトレポート

国際福祉機器展見学会報告

福祉施設機器調査委員会 寺田 修

全国社会福祉協議会及び(財)保健福祉広報協会主催による、高齢者と障害者の自立と介護を支援する福祉機器の総合展示会「第32回国際福祉機器展(HCR2005)」が平成17年9月27日から29日までの3日間、東京ビックサイト東展示ホールで開催されました。

この展示会の見学会を展示会初日の9月27日に研究部会活動の一環として、福祉施設機器調査委員会とユニバリ探求委員会共同で開催しました。協会のホームページ等で参加者を募集し、多数の方から申込みをいただきましたが、会社関係者や他所属団体と行動する方もおり当日の参加者は8名でした。最新の技術や福祉機器の情報を入手し、福祉機器の知識と理解を深めることを見学会の目的として、住宅改修に関わりがあると思われる展示を中心に、午前10時からの集合後、見学を開始しました。途中休憩や情報交換を交えながら、約5時間にわたり充実した見学を行いました。その後は自由行動とし、閉館時間の午後5時まで熱心に見学を続けた方もいました。

この展示会では国内企業・団体562社、海外企業は16カ国68社、計630社から出展され、野球場6面に相当する約5万平米の会場内に2万5千点を超える福祉機器や介護用品等が6つのゾーンに分かれ展示されていました。他にも、国際シンポジウム、特別講習特別セミナー、出展者ワークショップが開催され、子ども広場、福祉機器・住宅改修・リハビリ相談コーナー等も設置されていました。入場者は見学会当日で4万人弱、3日間で延13万5千人余、車椅子利用者も延べ3千数百人と大盛況のようでした。様々な障害を持った方も数多く見受けられ、電動ストレッチャ―?で自在に通行している方に遭遇して驚き、いろいろと考えさせられました。

今回の見学会では、最新の情報や資料が入手できた事、見て聞いて触って試すことが大それた事、具体的な検討事例がなく、全般的に広く浅く展示品を見るだけに終わった事、セミナーや相談コーナーが見られなかった事等々、参加者から多数の意見をいただきました。次回の企画に生かすよう今後の部会、委員会で検討したいと思えます。

多数の皆様のご参加とご協力をお願いいたします。

*福祉機器情報入手参考例

http://www.hor.or.jp

「HCR福祉機器情報サービス」が発信しているサイトは最新の福祉機器情報を入力する事ができ、大変便利です。



階段昇降機を使用体験中

「人間市住宅改修 アドバイザー報告」

大野 和昭

人間市住宅改修アドバイザーは、埼玉県建築士事務所協会の人間第2支部という立場である我々の働きかけで平成15年9月にスタートしました。当時、人間市における介護保険住宅改修の申請件数は年間200件超でしたが、申請される工事内容見積書をチェックする市の担当は建築には素人の福祉担当者であり大変な苦勞をされてきました。そんな実状から建築設計のプロである我々に必要性を感じていただけたということだと思います。

アドバイザーの業務は、住宅改修を行うおうとする高齢者等(以下「対象者」)宅への3回の訪問を基本に進められます。それは対象者の依頼を受けた担当のケアマネジャーからのFAXで始まり、まず、送信書には予備知識として対象者の状態、家族状況などの情報が書かれています。

第1回目はケアマネジャーの主導でアドバイザー、施工業者の三者で対象者宅を訪問します。アドバイザーは家屋の構造、対象者の状況を踏まえて助言をし、施工業者はそれを持帰り改修図面と見積書を作成しアドバイザーに送ります。アドバイザーはそれらをチェックし必要な場合は修正を施工業者に指示します。そして修正を終えると改修内容並びに工事金額が固まります。

第2回目は施工業者を伴い改修内容と見積書を対象者に説明し、対象者に十分理解を得てから施工業者に着工を指示します。

第3回目は工事完了検査です。ケアマネ、アドバイザー、施工業者の三者で確認を行いアドバイザーは対象者に改修箇所の説明と利用の指導を行います。

以上が人間市との間で定められたアドバイザーの業務の流れです。しかし、現実は一軒一軒違ってくることが多く、訪問回数もまちまちです。工事中、どうしても気になって現場に赴くこともあります。これは設計者として当然の思いだから仕方ないと全員が納得していません(多分)。スタートして3年経過し、今年の4月からは介護保険も改正されシステム的にも微妙に修正がなされていきます。しかし、一番

大事なことは対象者に本当に必要な助言を行い、それを確実に実現させるといことです。そしてそのことを忘れずに努めていくことが、我々の活動が市民に認知される唯一の方法だと思っています。



「伊勢丹浦和店 バリアフリー アドバイス」

栗林 稔昌

伊勢丹浦和店に対してバリアフリーアドバイスを行う事になったのは、昨年6月に他団体と合同にて行われた「街歩き探検」の時にふと立ち寄った際現状のままでは全ての人が笑顔で安心して利用するのに多少なりとも制限があると感じたからです。その後、共鳴してくれたい有志が立ち上がりお店舗

と交渉し、日を改めて店内のバリアフリーチェックを行う事となりました。当日、店側の担当者と一緒に移動動作を交えた検証を行い問題を提起し、後日改善提案書を提出する事となりました。今回の我々の提案が、「人に優しい」をキャッチフレーズにしている店側の意向とびつたり合い9月から店内改装が行われるという事もあり、担当者が本社と折衝して当初予定していなかった今回の検証箇所(多目的トイレ・駐車場を追加改装してもらう様取り計らう事が出来た次第です)。

改装完了までの問題箇所の使用は、担当者とメールや電話で連絡を取り合い、利用する事に於いては当面支障ないまでの応急処置を施して頂けました。途中改装状況を伺っている時に、従来設置されていた2Fと7Fの多目的トイレとは別に、5Fに新たな多目的トイレを増設するとの報告がありました。皆さんご存知の通り、多目的トイレとは、乳児を抱いた両親から高齢の方まで幅広い方々が利用出来る施設であります。当然、身体に障害を負っている方達も、故に必要とする人が多いにも関わらず、利用出来る施設が

限られていた為利用者が制限を強いられているのが現状でした。この様に新たに別の階に増設して頂けたことは、当初我々が提出した改善提案書にはなく、お店舗の自発的な対応は我々利用者にとつては嬉しい限りであります。障害用駐車場に關しても、車イスで十分に昇降出来るスペースを確保し、狭いながらも2台利用出来ることとなりました。

今回は予算的な問題もあると言つ事で、最低限度必要な箇所の改善にとどまりましたが、次年度は新たに予算を取り、EVや出入り口扉等他の問題点の改善も考えているとの嬉しい回答を頂くことが出来ました。皆さんも一度その素晴らしい店内を、又素晴らしい施設を見に、伊勢丹浦和店を訪れて、肌で感じてみては如何でしょうか?「また行きたくなる」と思えるお店です。

内装工事 リフォーム全般
設計・施工
株式会社 坂井
〒332-0031
埼玉県川口市青木 1-7-6
TEL 048-258-2441 FAX 048-258-2440

サンウェブ工業株式会社
埼玉支社
〒331-0812
さいたま市北区宮原町 2-41-8
TEL 048-663-1241 FAX 048-663-1242

電気を大切に
東京電力株式会社
埼玉支店
〒330-0074
さいたま市浦和区北浦和 5-14-2
TEL 048-690-2755 FAX 048-690-2319

**SANO 建築設計
デザイン事務所**
住宅ほか建築設計から施工まで
〒344-0067
埼玉県春日部市中央 7-6-3
TEL 047-734-3415 FAX 048-734-3413

「個人活動による待ち歩き」

バリアフリー改修委員会 副委員長 斉藤進一

お年寄りや障害を持たれた方の住環境改善が少しずつ浸透しつつありますが、次のテーマは「外出」ではないでしょうか？デパートは洋服売り場がメインですので、普段よく行く場所はスーパーやレストランだと思います。先日、埼玉スタジアム近くに東日本最大とされるショッピングセンターがオープンしたので行って参りました。個人活動ではありませんが、各視点での報告を致します。

このショッピングセンターの駐車場は3000台のスペースがあり、障害者用駐車場は入り口に合せ5箇所に分けられており、一般車が間違えない様表示されていました。駐車場のレベルと店舗のレベル差が殆どない為、スロープの上り下りが無い事は降雨時に利用される方に良いと思います。店舗に入ると早速トイレへ。長方形型の店舗には両端と中央の各階全てに多目的トイレが設置されていました。出入り口は手動の引き戸で設備は一通り揃っていますが、洗面台と鏡の配置が、車いす使用者には使いづらいと思います。また、車いす転倒時の警報スイッチが床面近くに無いのが残念でした。しかし、全トイレに多目的トイレが常設されているので、利用者にとっては最大の安心に繋がるでしょう。

トイレを出て店舗内の通路へ。行き先表示が小さいので、お年寄りや弱視の方には不便ですが、入り口に設置されているフロアガイドを見ながらだと利用しやすそうです。スロープ側の床は、タイルでしたが、専門店側に入ると足の長めなカーペット敷き

(イメージの差別化のつもり?)になり車いすの方向転換や白杖での情報取得などに支障をきたすつくりが気になりました。また、専門店にありがちな商品陳列の仕方も、通路幅が狭くなったり規則性がないので、視覚障害の方は歩行が苦になりそうです。この点はソフト面なので、今後各店舗の意識改革をお願いしたいと思います。しかし、最新の店舗だけあってどのレストラン・お店内も段差が一切ないのは車いす使用の方や足腰の弱いお年寄りに朗報です。しかしEVのスイッチや鏡がせつかくバリアフリー対応になってきているのに、開閉時間が短いのは特有な現象なので改善して頂きたいものです。

船橋にあるショッピングセンターのようなものが埼玉にできたのですから、障害をお持ちの方のこれからの生活スタイルは「我慢からの開放」であって欲しいと願っております。

いよいよ春真っ盛り、おしゃれをして出かけましょう！



埼玉大会分科会 「心」と「体」のバリアフリー 報告

稲垣 雄一

昨年9月16日に大宮ソニックスティを会場とし、日本建築士事務所協会連合会の埼玉大会が行われました。その中で、「心と体のバリアフリーについて考える」ことを主題とした分科会が行われ、当バリアフリー協会もその企画と運営の協力を行いました。

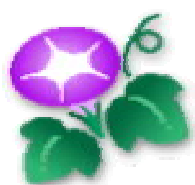
当初企画の内容がなかなか決まらず、川越のバリアフリー探検報告を芝居仕立てで行う等の案も出ましたが、予算もあり無理だということになりました。準備会議において、カレッジでいつもお世話になっている高橋先生と、「セックスポランティア」の著書がある河合香織氏にご講演いただくことの提案がありました。しかしながら建築、まちづくりの専門である高橋先生と河合先生のお話がどういった方向でまとまるか、かみ合うか、テーマは何にするかがなかなか決まりませんでした。結局、建築を含めた周辺環境を「体」という言葉で表現し、人間の内面を「心」という言葉で表現し物的環境と内的環境の両面からバリアフリーという問題を考えてみようということになってテーマは「心」と「体」のバリアフリーと決まりました。しかし、最終的に河合先生に「心」のバリアフリー、高橋先生に「体」のバリアフリーというテーマで話していただき最後にお二人に掛け合いを御願いくことで細部が決まったのは当日の昼食を取りながらの打ち合わせの席という綱渡りでした。

河合氏からは著作の紹介や欧米の例など紹介ののち、障害者の「失敗も含めた選択肢」を広げる環境を整えることが大事である。障害があっても自分が見えぬ選択肢が認められる社会や環境、バリアフリーの実現が大事であり、それが誰にとっても暮らしやすい社会である。と述べられました。

高橋先生からは、なぜこの世界に関わられるようになったかなどご自身の経歴、海外におけるユニバーサルデザインのとらえ方、誤ったユニバーサルデザインの失敗例など紹介がありました。そして、結論として「個人の尊厳を守ることができる環境を私達自身が作る事ができるか、維持していくことができるか。」が問われており、それらを通して「個人の尊厳、プライバシーの尊厳」へつながっていくと述べられました。

最後にお二人の掛け合い、出席者との質疑応答で熱のこもった会となりました。予定調和的なパネルディスカッションでなく、非常にスリリングな会となり、終了間際には満席で立見がでるほどの盛況でした。

ここにこの会の企画運営にご協力いただいた皆様に感謝します。ありがとうございました。



各委員会より

研究部会

福祉施設機器調査委員会

弘田 けい子

当委員会では2005年度の活動として、以下の作業をしてきました。

住宅改修における福祉機器の活用のための各種資料作りについて、住宅改修部位の分類、各種福祉機器類の資料の収集をおこないました。各福祉施設の概要を体系別に調査し、活動に必要な情報の整理をしています。

9月27日(火)、東京ビッグサイトで行われた「国際福祉機器展」は、ユニ・バリア探求委員会と合同で見学会を行いました。

今年度は、上記、について、さらに調査、整理を進め、会員の皆様に最新の情報をわかりやすい形で提供できるよつ、活動していくつもりです。また、「国際福祉機器展」は、今年もユニ・バリア探求委員会と共催で見学会を企画します。

皆様の参加とご協力を、よろしくお願いいたします。

研究部会

ユニ・バリア探求委員会

栗林 稔昌

当ユニ・バリア探求委員会は他団体と接触し、協同にて色々な視察及び体験学習を行い各々の問題点を探っています。その第1回目として4月15日に伊勢丹浦和店の再検証を行いました。傷害状況に関係無く、全ての人が自由に利用出来る様に各委員自ら検証し、検証後参加者全員によって議論し改善提案書を提出し、改善して頂くことが出来ました。

今後もこの様な活動を行い、サービスをする方、受ける方との双方の視線で感じる様にお手伝いしていきます。今期中に又、別の箇所の検証を考えておりますので皆さんの参加お待ち致しております。又、当委員会に於いて現福祉の問題点でもあります情報不足の解消、情報の共有化を目指し当委員会独自のメーリングリストを開設しております。こちらも併せて参加頂ければ、助かります。今後共宜しくお願い致します。

企画部会

バリアフリー改修委員会

戸井田 秀明

私達の活動目標は、住まいのバリアフリー改修についての相談窓口となるという点と、住宅改修事例の調査、収集という2点がテーマです。17年度は、限られた個々の委員それぞれの活動で終わってしまい、活動範囲も小さく委員会としてのまとまりもなく、成果に結び付くまでに至っておりませんが、収集した情報や、改修のノウハウは蓄積されつつあります。又、ここで委員会の進め方も見直され、活動内容に方向性が表れ、前向きに計画へ向けて動き出す事が出来ました。バリアフリーという言葉に対し、新バリアフリーという、さらに具体的に生活に入り込んださまざまな理念が、あちらこちらであたりまえになつてきました。18年度は既に、見学会や勉強会、さらに住宅改修相談会等の開催予定も決まっています。益々活動範囲を広げて、バリアフリー協会の活性化を図っていきたくと考えております。皆様からの御協力を宜しくお願い致します。

企画部会

B F 建築カレッジ

実行委員会
武田 敏彦

彩の国バリアフリー建築カレッジは、平成16年までに7回開催され、約百人の方々が卒業し、建築のみならず、医療や介護等、さまざまな分野で活躍が期待されています。当協会はカレッジ受講修了者により構成されていますので、当協会にあって建築カレッジはルーツであり、バックボーンであるといえます。この建築カレッジが大きく発展することは、私達にとっても大きな喜びです。

バリアフリー建築カレッジ実行委員会は、埼玉県及び建築士事務所協会とともに、建築カレッジ開催のための企画運営にボランティアとして参加し、カレッジ成功の大きな力となつてまいりました。

今後も建築カレッジ発展のために、なお一層努力してまいりますので、皆様のご協力をお願いいたします。



彩の国バリアフリー協会のホームページが開設致しました

会員の皆様に各委員会の活動情報をリアルタイムでお知らせする場として、また、あなたの意見を会員の皆様に伝える場として、そして会員以外の県民の方々へ『彩の国バリアフリー協会』という存在を広く知らしめる場としての3つの役割を念頭に運営していきたいと思っております。多くの会員の方にご利用いただき、皆様の力で役に立つホームページとして、日ごと成長できたら最高！と考えておりますので、今後ともご活用程よろしく願いいたします。

ホームページアドレス

<http://homepage2.nifty.com/enosons/sbfa/sbfa001.htm>

新会員紹介

入会(正会員)

橋本政樹

(有)ジーワークス

設計事務所(朝霞市)

金子保

(有)ウエルプランニング

(越谷市)

石井章規

(北葛飾郡杉戸町)

賛助会員募集中

賛助会員の方の年会費は一口一万円をお願いしております。

編集後記

彩の国バリアフリー協会の広報誌としてEQだより第3号の発行です。

今回は各委員会や支部の皆様の活躍を中心に組んで見ました。こうしてみると当協会も着実に活躍の場を広げつつあることを実感しました。バリアフリーからユニバーサルへ歌い文句だけは進化していきますが、現実の進化はまだまだ誰もが快適とは言いがたいですね。でも一歩づつ。そんな中、原稿依頼に快く応じてくださった皆様、本当にありがとうございます。(高)